

編集後記

このたび、異動により新たに本誌の編集を担当することとなりました。不慣れではありますが、できるだけわかりやすい紙面づくりをめざしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

さて、今号では、平成25-26年度に発表された研究成果を紹介しました。

今や日本人の食卓に欠かせないサケとクロマグロですが、日本海に回帰するサケ資源は依然として低迷した状況が続いています。そのため、より効果的な放流手法を検討するために、今年度から水産庁の補助事業の一環として、民間ふ化場での標識放流調査が開始されました。また、太平洋クロマグロの資源は歴史的な低水準と言われており、日本海でも各地において漁業管理の強化が検討されています。

新潟に来て最も印象的だったのは、日本海に沈む夕陽の美しさです。近くの砂浜海岸から臨む景色にいつも癒やされています。しかしながら、新潟県の砂浜沿岸域は、人にとって憩いの場所となっている一方で、人間活動の影響により海岸浸食などが進んでいるそうです。砂浜域は多様な海洋生物の重要な生育場でもあります。日水研ではこうした砂浜域での環境変化が海洋生物にどう影響しているかを野外調査等により研究しています。

今回紹介した研究成果はほんの一端に過ぎませんが、こうした研究の積み重ねが漁業資源の回復に向けた取り組みにつながっていくことを期待しています。

最後に、みずほ丸が気象庁から感謝状を授与されました。近年、多くの調査船には自動観測装置が整備されているそうですが、みずほ丸には沖合航海時でのインターネット環境が整備されていないため、毎日欠かさず、通信士らが気象測器を使って観測を行い、その結果を漁業無線で報告しています。こうした地道な取り組みが評価されたことに同じ水研センター職員としてとても誇りに思います。

本紙は年に2回（8月、3月）の発行を予定しています。本紙掲載内容や当水研に対するご意見・ご要望がありましたら、下記までお知らせ下さい。

（日本海区水産研究所業務推進課長）

発行：国立研究開発法人水産総合研究センター

編集：国立研究開発法人水産総合研究センター日本海区水産研究所
〒951-8121 新潟市中央区水道町1-5939-22
電話：025-228-0451(代) FAX：025-224-0950
<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>